

第3章	日本の自然環境	学習日 月 日	名前
-----	---------	------------	----

教科書 P76～ 要点ノート P～36

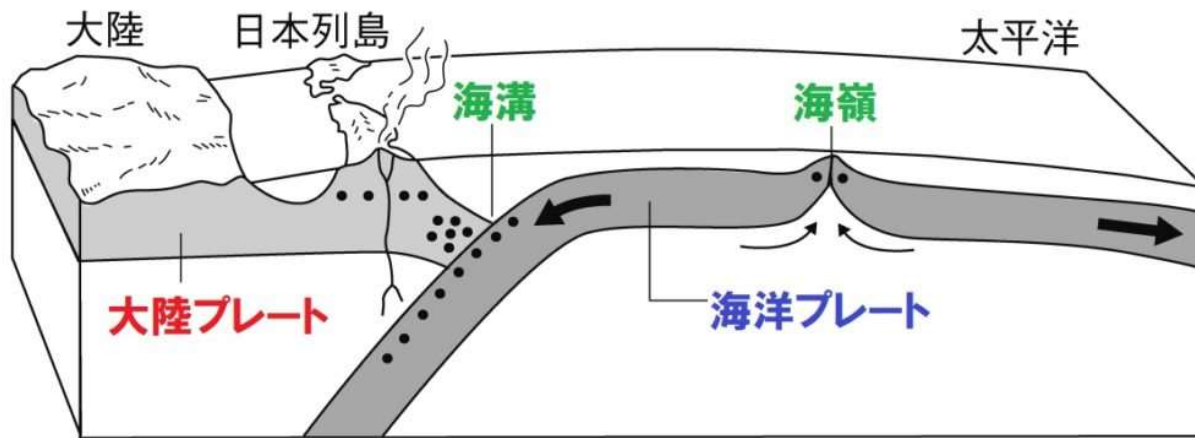
(2)地形の続き

深さ100kmほどの地中でマグマが形成される = 海溝のすぐ近くではマグマにならない  
 マグマは比重が軽いため、割れ目があると上昇。地下 10 kmあたりにマグマだまりをつくる。

→ さらに割れ目があるとそこからマグマが噴出。これを噴火という。

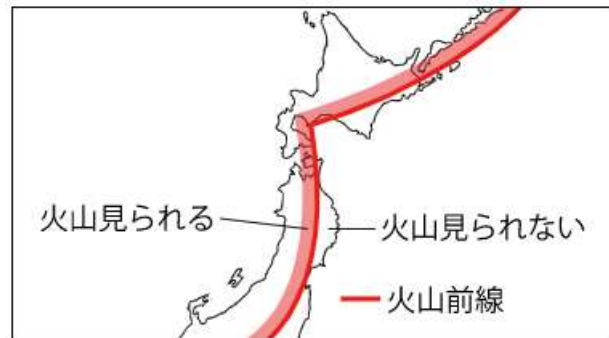
(1 )【火山前線ともいう】

海溝から一定距離の大陸プレート上に火山が存在する。その火山帯の海溝側の境界のこと。



火山は海溝のすぐそばではなく、海溝から一定距離離れたところに生成される。

ということは、海溝-山地-火山-緑海-大陸というように並ぶことが多いということ。



デレーケ

オランダ人技師。明治時代の日本にやってきて、河川改修や砂防に大きな功績があった。現在でも農林水産省のホームページに偉人として掲載されている。



構造線

① 日本列島を西南日本と東北日本にわけると = (2 )

西縁が糸魚川～静岡構造線

② 西南日本をさらに内帯と外帯にわけると = (3 )

北側の内帯は丘陵・高原・小規模の山地が分布。比較的低くてなだらかな

南側の外帯は標高が比較的高く、V字谷が刻まれた山地・山脈が連なっている



日本の山野河川

・ 山地

日本の国土の60%が山地

※ 新期造山帯のため、急峻な山地・山脈が多く、山麓には扇状地が発達

・ 平野

日本は山と雨が多いため、土砂が下流へ運ばれて

(4 )が多い。

→ 谷底平野・扇状地・三角州が形成される

・ 河川

勾配が急で長さが短い

・ 氷河地形

約2万年前の氷河期には、日本にも山岳氷河が今以上に発達していた。

例えば、北海道の日高山脈や日本アルプス(飛騨山脈・木曾山脈・赤石山脈)など。

現在は飛騨山脈に少しだけ見られる。